第 608 回
日本小児科学会東京都地方会講話会
プ ロ グ ラ ム

日　時　　平成26年３月８日（土）午後２時00分

場　所　　東京慈恵会医科大学１号館３Ｆ講堂

演題の申し込みについて

1. ホームページの演題申込用紙にご記入の上 e-mail で事務局宛送ってください。
2. 抄録（160 字以内）をおつけください。
3. 原則として指定発言をつけてください。
4. 演者、指定発言者は、ご発表の月末までに二次抄録（200字 以内）を e-mail で事務局宛お送り下さい。（日本小児科学会誌掲載の為）

世話人

プログラム係　　**三牧　正和**
東 京 大 学 小 児 科　　03（5800）8659
（FAX）03（3816）4108

会　場　係　　**田知本　寛**
東京慈恵会医科大学小児科　　03（3433）1111
（FAX）03（3435）8665

事　務　局　　03（5388）7007
e-mail：jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 608 回　日本小児科学会東京都地方会講話会演題

（1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者）

第 1 グループ　　14:00―14:35

座長　高橋　長久（東京大学小児科）

1）ライノウイルス感染による急性呼吸障害を呈した乳児例

○代田　惇朗、辻本　信一、吉本　優里、稲井　郁子、草川　　功　（聖路加国際病院小児科）

満期産で出生した日齢 60 の男児。来院当日からの発熱・鼻汁・咳嗽活気不良を主訴に来院。呻吟・陥没呼吸を呈し SpO_2 85%であった。無呼吸と刺激への反応不良があり挿管し 3 日間の人工呼吸管理の後に回復した。提出した咽頭ぬぐい液の PCR よりライノウイルスが同定された。乳児で急性発症する呼吸障害の原因として今後も考慮すべきと考えられた。

2）哺乳後の低血糖で気付かれた高インスリン血症性低血糖症の 6 か月女児例

○藤巻　有希、麻生　敬子、正田八州穂、松裏　裕行、佐藤　真理、高橋　浩之、小原　　明、佐地　　勉　（東邦大学医療センター大森病院小児科）

無熱性けいれんを主訴に来院した 6 か月女児。新生児期のタンデムマス検査は正常であった。哺乳直後の尿ケトン陰性の低血糖（39 mg/dl）のため精査した結果、高インスリン血症性低血糖症と診断した。その後、ジアゾキサイドを開始し、現在著効している。低血糖症では食事からの時間経過が重要で、食後低血糖症では高インスリン血症を疑う必要がある。

3）体重増加不良から乳児消化管アレルギーの診断に至った 3 歳男児例

○所　　陽香[1)]、勝沼　俊雄[1)2)]、梅田　千里[1)2)]、柳澤　　妙[1)2)]、池本　　智[1)2)]、本木　隆規[1)2)]、山内　祐子[1)2)]、田村英一郎[1)2)]、赤司　賢一[1)2)]、井田　博幸[2)]
（東京慈恵会医科大学第三病院小児科）[1)]、（東京慈恵会医科大学小児科）[2)]

アトピー性皮膚炎と食物（鶏卵）アレルギーのため外来フォロー中であったが、9 ヶ月より体重増加不良を認めたため精査入院となった（身長－2.0SD、体重－1.1SD）。器質的疾患は認めず新生児乳児消化管アレルギー（FPIES）を疑った。ALST 陽性、牛乳負荷試験陽性であったため FPIES クラスター 3 の診断に至った。今回診断後 2 年を経た経過と併せて報告する。

指定発言　野村伊知郎（国立成育医療研究センター病院生体防御系内科部、アレルギー科）

第 2 グループ　　14:35―15:05

座長　豊田　彰史（帝京大学小児科）

4）*Klebsiella oxytoca* による抗菌薬関連出血性腸炎の 1 例

○山田茉未子、冨田健太朗、武内　俊樹、山澤　一樹、関口進一郎、新庄　正宜、高橋　孝雄
（慶應義塾大学小児科）

14 歳女児。激しい腹痛を伴う血便を主訴に入院した。3 日前に歯科治療を受け、アモキシシリンを内服していた。便から *Klebsiella oxytoca* を多数検出し、内服歴から菌交代現象による抗菌薬関連出血性腸炎と診断した。アモキシシリンを中止したところ症状は自然に軽快した。血便患者の診断においては抗菌薬使用歴を聴取することが重要である。

5）繰り返す心窩部痛より遺伝性膵炎と確定診断した 1 女児例

○岸部　　峻[1)]、工藤　孝広[2)]、立花　奈緒[2)]、榊原　裕史[1)]、寺川　敏郎[1)]、長谷川行洋[1)]、村越孝次[2)]　（東京都立小児総合医療センター総合診療科）[1)]、（同　消化器科）[2)]

5 歳女児。激しい心窩部痛・嘔吐で前医受診。膵酵素の上昇、造影 CT で膵頭部腫大・一部石灰化を認め、急性膵炎の診断で当院紹介入院。禁飲食で軽快し退院。過去に心窩部痛が 3 回あったため基礎疾患の検索を行い、遺伝子検査で遺伝性膵炎と診断。原因不明の心窩部痛を繰り返す場合は、遺伝性膵炎などの基礎疾患を考慮する必要がある。

6）腸重積での入院を契機に腎性高血圧症と診断された乳児の１例

○隈元麻里子[1)2)]、三上　直朗[2)]、久保田　亘[2)]、吉田　賢弘[2)]、奥田　雄介[2)]、篠塚　俊介[2)]、
寺野千香子[2)]、原田　涼子[2)]、濱田　　陸[2)]、石倉　健司[2)]、幡谷　浩史[2)]、本田　雅敬[2)]
（東京都立墨東病院小児科）[1)]、（東京都立小児総合医療センター腎臓内科）[2)]

［　８ヶ月女児。腸重積で入院し、高血圧（150/90mmHg）が判明した。原因検索の造影 CT で左腎動脈の全体的狭小化、左腎の斑状造影不良域があり、血液検査で RAA 系亢進を認め、腎性高血圧と診断した。小児高血圧は、健診等で偶然に発見される事も多い。小児二次性高血圧の多くが腎性高血圧であり、日常診療での血圧測定が重要と考えた。］

休　　憩　　15:05―15:15

総会および名誉会員証授与式　15:15―15:30

平成26年度 名誉会員

松田　光彦先生、阿部　敏明先生、別所　文雄先生、廣津　卓夫先生

感染症だより　　15:30―15:50（講演:15分＋質疑応答: 5 分）

座長　和田　紀之（和田小児科医院）

多屋　馨子（国立感染症研究所感染症疫学センター）

教 育 講 演　　15:50―16:35（講演:40分＋質疑応答: 5 分）

座長　門脇　弘子（山王病院）

思春期の性と LEP（女性ホルモン剤）の活用

早乙女智子（神奈川県医師会神奈川県立汐見台病院産科）

［　思春期女性には月経周期の獲得についで排卵の開始が起こるが、成長期であることに加えて学業や部活、人間関係のストレスなどによりホルモンバランスが不安定で月経不順をはじめとした月経トラブルが起こりやすい。また子宮が未熟であるために月経困難症をきたしがちで、近年、子宮内膜症の増加傾向もある。LEP によって月経困難症等の日常生活の困難を排し、不意の妊娠や子宮内膜症を予防し、将来の妊孕性を保つことができる。産婦人科以外で処方されることは少ないが、保険薬の LEP を有効活用したいものである。］

第 3 グループ　　16:35―17:10

座長　吉原　宏樹（聖路加国際病院小児科）

7）著明な肝腫大により呼吸障害をきたした神経芽種 stage4S の生後 2 か月男児例

○與田　　緑、谷ヶ崎　博、西川　英里、下澤　克宜、平井麻衣子、加藤麻衣子、陳　　基明、
麦島　秀雄、高橋　昌里　　（日本大学板橋病院小児科）

［　腹部膨満を主訴に来院した 2 か月男児。腹部 CT で左副腎腫瘍と多発性肝腫瘍を認め、尿中 HVA/VMA 高値、MIBG 集積性であった。転移巣は肝限局性であり神経芽腫 stage4S と診断した。肝腫大による呼吸障害のため肝に対し緊急照射（4.5Gy）後、JNBSG LI-A レジメンを開始し腫瘍縮小に伴い呼吸状態は改善した。今後、原発巣摘出術予定である。］

8）複数の成人診療科を経たのち診断された横紋筋肉腫の 19 歳女性

○山田　悠司、嶋　　晴子、嶋田　博之、高橋　孝雄　　（慶應義塾大学小児科）

AYA 世代（15 歳から 29 歳）の肉腫患者は通常、発生部位に関連する成人診療科を最初に受診する。しかし AYA 世代の肉腫は稀少であり発生部位も多岐に渡るため、成人診療科での経験は少ない。今回、複数の診療科を転々とした後に、全身転移で紹介された横紋筋肉腫の 19 歳女性を経験した。AYA 世代の肉腫の診療上の問題点を提起する。

9）慢性 ITP として経過観察中、学校検尿異常をきっかけとして診断に至った X 連鎖血小板減少症（X-linked thrombocytopenia：XLT）の 1 例

○田中雄一郎[1)]、前川　貴伸[1)]、中舘　尚也[1)]、石黒　　精[1)]、河合　利尚[2)]、小椋　雅夫[3)]、伊藤　秀一[3)]　　（国立成育医療研究センター総合診療部）[1)]、（同　免疫科）[2)]、（同　腎臓・リウマチ・膠原病科）[3)]

11 歳男児。1 歳時に血小板減少を指摘され ITP として治療を行うが反応は不良で、慢性 ITP として経過観察された。小 6 年時の学校検尿異常（血尿および蛋白尿）をきっかけに精査の結果、WAS 遺伝子変異を認め、X 連鎖血小板減少症（XLT）の診断に至った。慢性 ITP 症例の中に XLT が含まれている可能性がある。

指定発言　内山　　徹（国立成育医療研究センター研究所成育遺伝研究部）

第 4 グループ　　17:10―17:40

座長　木村　有希（都立小児総合医療センター）

10）黄疸を契機に発見された肝血管腫の 1 例

○宮下　智行、小林　千佳、杉江　　学、青木　由貴、富澤　大輔、水谷　修紀　（東京医科歯科大学小児科）

一般に新生児の肝血管腫は自然消退するものが多いが、その大きさや臨床症状によりさまざまな治療方針がとられ、近年保存的治療の一つとしてプロプラノロールの有効性が報告されている。今回我々は早発黄疸を契機に発見され、輸血を必要とする重度の貧血を反復した肝血管腫に対してプロプラノロールを使用した 1 例を経験したのでここに報告する。

11）甲状腺刺激抗体強陽性のバセドウ病母体から出生した兄妹例

○田村麻由子、柴村　美帆、小川　　敦、小川　哲史、伊藤　純子　　（虎の門病院小児科）

兄：日齢 2 に fT4 7.83ng/dℓ、fT3＞25pg/ml。頻脈、易刺激性を認め、ヨウ化カリウム、チアマゾール、プロプラノロールによる加療を要した。妹：fT4、fT3 の最大値は 1.76ng/dℓ、5.64pg/ml で加療を要しなかった。母の TSAb は第 1 子時 5080％、第 2 子時 1657％であった。バセドウ病母体児の臨床像は多彩である。

12）出生時に肘関節拘縮と筋緊張低下を認めた胎児脊髄損傷の 1 例

○井福真友美[1)]、五十嵐鮎子[1)]、森　　真理[1)]、池野　　充[1)]、北村　知宏[1)]、久田　　研[1)]、東海林宏道[1)]、小松　充孝[2)]、奥村　彰久[3)]、清水　俊明[1)]
（順天堂大学小児科）[1)]、（社会福祉法人賛育会病院小児科）[2)]、（愛知医科大学小児科）[3)]

在胎 35 週、2118g で出生した新生児。出生時より呼吸障害に加え上肢優位の筋緊張低下と両肘関節拘縮、膝蓋腱反射消失を認め当院に入院となったが原因は特定できなかった。生後 2 か月時に感染と呼吸障害を契機に再入院となり、生後 3 か月時の MRI で下部頸髄の萎縮と周囲の陳旧性変化を認め、経過から胎児期の出血による脊髄損傷と考えた。

【運営委員会だより】

1．平成 26 年 3 月講話会（第 608 回）のプログラム編成について東京大学小児科の三牧正和先生より説明がありました。
2．次期プログラム委員は東京慈恵会医科大学小児科の宮田市郎先生が担当されます。
3．平成 26 年 3 月 8 日(土)は第 608 回講話会開催時に平成 25 年度日本小児科学会東京都地方会総会が開催されます。
4．次期会長である順天堂大学小児科の清水俊明先生より平成 26 年度東京都地方会の教育講演のスケジュールについて説明がありました。
5．平成 26 年 3 月 8 日(土)の総会終了後に開催されます運営委員会は新旧合同運営委員会となります。
6．２月の講話会出席者は 186 名、新入会者 7 名、退会者 0 名、ベビーシッタールーム利用者は 3 名でした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。動画使用の場合には、具体的な注意事項を、折り返し事務局よりご連絡いたします。
- 原則として指定発言をつけて下さい。
- 演題の締切は次のようになります。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1 月	**前年 11 月 30 日**	2 月	**前年 12 月 25 日**	3 月	1 月 31 日
5 月	2 月 28 日	6 月	4 月 30 日	7 月	5 月 31 日
9 月	6 月 30 日	10 月	8 月 31 日	12 月	9 月 30 日

申込演題が 12 題以上になった場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。
その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- **一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿はワード入力でe-mailにて事務局へお送り下さい。）**
- **出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願いいたします。**

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局　e-mail：jpstokyo-office@umin.ac.jp／FAX：03（5388）5193

Presentation について

発表は Computer Presentation（Windows）のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1 、 2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。

② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡ください。

③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の 1 週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・および預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、 3 日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局　TEL 03-5388-7007／FAX 03-5388-5193

WAKODO

小児医療・育児関連専門職の方のための

わこちゃん

育児情報サイト OPEN

和光堂ホームページに「小児医療・育児関連専門職情報サイト」をオープンしました。
育児支援や指導用にご利用いただける情報を掲載しています。

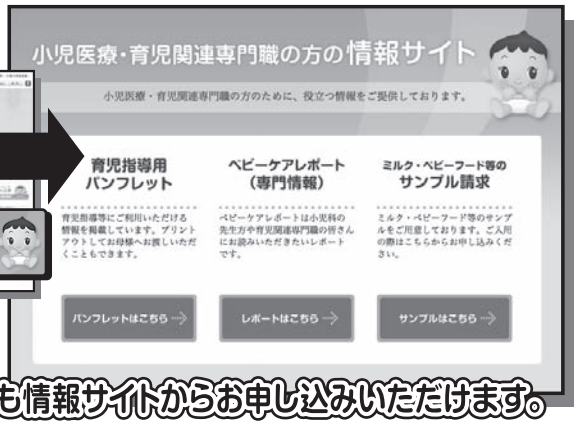
和光堂トップページから
「小児医療・育児専門職情報サイト」
をクリック。
専用サイトをぜひご活用ください。

和光堂　検索

www.wakodo.co.jp

和光堂トップページ

クリック



ミルク・ベビーフード等のサンプル請求も情報サイトからお申し込みいただけます。

和光堂株式会社　お客様相談室 0120-88-9283　受付時間 9:00～17:00(土日・祝日を除く)
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3